

③ 教育問題

過去3年間の学力テストの結果を見て驚いた。小学生の国語と中学生の英語で全国平均を2～3点上回っている以外は、全ての教科で全国平均を下回っていたのだ。しかも理科と社会に関しては10点以上も差がある学年があり、新座市の教育力の低下を実感した。

「学力向上の為に具体的にどう努力をしていますか」という質問に、教育長は「授業時数の確保に努力しています」と答えたのだが・・・実際には中学生の中体連の大会を土日にするように、と何度も要求しているのに、相変わらず市大会だけで年間10時間から12時間もカットにし、残った生徒も市大会だけで12時間の自習。実質的には年間、24時間の時間を無駄にしているのだ。これに班大会、県大会が加わると、年間980時間のうち、子供たちが授業に出られない時間は最大、72時間にもなる。これは近隣の都県では考えられない非常識なことで、東京も神奈川も千葉も子ども達の授業を一番に考え、殆どの大会を土日に行っている。埼玉県も新座市も教育に関しては遅れに遅れているのだ。もう一つ問題なのが“自習”だ。出張も年休も、全ての自習は“授業”とカウントされているのである。これに関する答弁も的外れな答弁で困った……。

高邑は授業時数を増やし、授業時間を短くする提案をした。小中学校の授業時間を現行の小学校45分、中学校50分からどちらも40分にするというものだ。特に中学校での学力低下が目立っている今日、具体的な方策を立てないと挽回は難しい。

40分授業の長所は次の7点

1. 短いから集中できる。(生徒も先生も)
2. 週に7時間授業時間を増やすことができる。(文部科学省の単位時間は同じ)
3. 主要教科はほぼ毎日することが可能になる。(現行では週3～4時間)
4. 給食を12時から13時の間に食べることができる。(現行では13時頃でないと食べられない)
5. 先生達の空き時間が増える。(疲労回復、授業準備などに有効)
6. 理科などの実験、実習がやりやすくなる。(現行では週3時間しかない)
7. 毎日7時間やっても、15時20分には終了する。(50分授業を7時間やっているとあるが、それよりはおよそ1時間早く終わる。)

この提案を文部科学省に問い合わせたところ、「全く問題ありません!」という回答だった。要するに50分授業を4日やるよりも、40分授業を5日やった方が能率ははるかにいいだろうという発想だ。語学に限らず、主要五教科くらいは毎日やる。そういう発想が欲しい。浦和の方では50分授業を25分ずつ分けて、別の教科をやる場所まであるのだ。集中しない授業に魅力はない。自分の経験からも40分授業は効率がよく、生徒も喰らいついてくるもの。

来年の4月には「全国一斉の学力テスト」が控えている。新座市の子供達のためにも、新座市の未来のためにも、教育力を高めることは他の何より優先すべき問題だと思う。

一生懸命

黒目川

8月6日の黒目川での「ワイワイ遊び」に参加してきた。みんなで川を清掃した後は、魚の実態調査。9時から12時の間に、アユ…22匹。ウキグリ…12匹。オイカワ…33匹。マドジョウ…1匹。カワムツ…5匹。タモロコ…1匹。クロメダカ…1匹。ヒメダカ…1匹。アブラハヤ…15匹。ウグイ…1匹。モズクガニ…1匹。ヒゴイ…2匹。これだけの魚が獲れたのには驚いた。そして一番驚いたのが、川の綺麗なこと・・・札幌を流れる発寒川と同じくらい綺麗な水が流れていた。黒目川は湧き水の川だ。小平霊園から湧き出した水が流れ出し、たくさんの湧き水を集めて流れている。現在260億の借金があり、毎年利子だけで約12億も返済している下水道会計だが、黒目川を綺麗にしたことは素晴らしい。新座市を流れる川が海を汚さない・・・胸を張っていいことだと思う。



たかやんのプロフィール

1954年、東京都新宿区生まれ。西戸山小中学校から都立石神井高校を経て北海道大学へ。大学3年の時、朝日新聞の「今学校で!」を読み、教師になることを決意する。1977年、新座五中に赴任、五中で10年、六中で10年、二中で1年、計21年間理科(国語、数学、英語、体育)の教師として生きる。1998年、新座市新堀1丁目に「たかやん塾」開校。2000年2月、市議会選挙に立候補。9768円で戦い24票差で次点となる。2004年2月の選挙でもお金をかけずに戦い1272票で当選、小中学生と共に歩きながら「教育問題」を中心に発言を続け現在に至る。